

「自衛隊も米軍も、日本にはいない」

レジュメ

自衛隊・米軍の存在を容認する護憲運動では、改憲勢力に勝てない

A) これまで明文改憲されなかったのは護憲運動の成果か？

- ・憲法を守ったのは憲法自身の硬党性

B) 「戦争反対」「平和主義」「不戦の誓い」は護憲派だけの専売特許か？

- ・戦時中南方で従軍慰安所を自ら設営した改憲派の先鋒、中曽根元首相は世界平和研究所の会長
- ・“戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この決然たる誓いを貫き、万人が心豊かに暮らせる世の中を実現する”と沖縄戦没者に誓った安倍前首相

C) 与野党の安保政策の違いはどこに？

自国の軍隊を専守防衛の軍隊と言わない国は世界中どこにもない

厳しい現実

A) 国民の無関心・過小評価の中で一挙に進む自衛隊の強化と日米軍事一体化

- ・自衛隊の最新兵器・装備保有で日本は今や世界最強の軍事力保有国に
- ・自衛隊と米軍などとの度重なる合同演習実施、日米共同軍事行動の深化

B) 集団的自衛権行使を容認する平和安全法制、通称「戦争法案」の施行と

特定秘密保護法、共謀罪、盗聴法など言論・表現の自由、平和運動を規制する事前法整備のセットによる憲法第9条の無力化

C) 野党らしい野党の消滅

- ・自衛隊廃止・日米安保破棄を正面から唱える政治勢力は皆無に等しい。
- ・政党の綱領で非武装中立を謳っている共産党、社民党、緑の党も「非武装中立」について野党共闘の立場から封印して有権者に言わない
- ・これまで野党の専売特許だった生活第一、社会福祉重視政策などが財政規律を無視したバラマキ(10万円支給 Go to~)で与党に手柄を横取りされ野党の存在感が益々薄い

D) 市民による平和運動の微力と一向に上がらない運動成果

「“憲法9条を護る” 1点でまとまろう、」「“自衛隊も米軍も専守防衛ならOK”」で果たして改憲勢力に勝てるか？

- ・再軍備反対運動の消滅、「9条の会」が自衛隊廃止・日米安保廃棄を言わない、
- ・全国革新懇も目標には掲げているが具体的活動はしない
- ・高齢化も進み平和運動が自己目的化？（ガス抜き・気晴らし・充実感）で自己満足
- ・平和運動のマイクロコミュニティ（釣り堀）運動化？の傾向から拡がりが見えない

日本国民、政治家、メディア、学者、法曹界、経済界は挙げて思考停止状態
そんな中で

恒久平和を願う日本国民として憲法第9条の平和理念を体現するには

- ・“国連憲章の集団安全保障体制（国連警察軍）の確立“や”国連安保理改革の断行“日本国憲法第9条への国連や国際世論の支持が日本の非武装実現の鍵を握っていると考えそれらに期待を寄せている限り日本の完全非武装は未来永劫、実現しない。
- ・国際政治環境がいかに不安定・緊張状態であれ非武装を掲げた平和憲法を手にしていく日本国民は日本単独でも非武装中立の実現を目指したグランドデザインを描こう。
- ・日本政府にその気がないのであれば、我々市民が市民レベルで一丸となって自衛隊廃止・日米安保破棄のロードマップを描き、将来の非武装国家像を提示することで大きな国民運動のうねりをつくっていかう。

防災平和省、災害救助即応隊ジャイロの創設と効用

目標達成期限を5年後の2025年とする（私案）

本書は日本が率先して単独であっても行動を起こし世界に範を示すことのできる崇高・倫理的かつ現実的な安全保障の実践を提案している。

日米安保条約は今年締結60周年を迎えたが、4年後の2024年には自衛隊創設70周年を迎える。このまま自衛隊や日米安保条約、米軍駐留を容認すれば防災平和省の創設および自衛隊の非軍事組織「災害救助即応隊ジャイロ」への衣替え、そして日米安保条約廃棄は益々難しくなるばかりであろう。

“産むは案ずるより易し”は蓋し名言中の名言

“なぜ自衛隊廃止論が9条の会のメインテーマにならないのか”
 の疑問に対する或る憲法学識者の回答（以下に引用）が本書出版の契機になった

—引用—

花岡さんは某日の「〇〇9条の会」の講演会で、「9条の会はなぜ自衛隊廃止や安保条約破棄を主張しないのか」と質問したが無視されたとお書きになっておられました。

9条の会は、「9条を守る」ことを一致点として結集した会だと思いますが、肝心の9条の意味については合意がなく、自衛隊廃止や安保破棄はそもそも合意の対象とはなっていないからだと思います。その点を9条の会に問い詰めても仕方がなく、自衛隊廃止や安保破棄を正面から提起している団体がないからこそ、ご著書を出版する意味があるのだと思います。

ところで、なぜ9条の会が自衛隊廃止を一致点にできないかと言いますと、（自衛隊を支持する世論の広がりに加え、）「護憲」の意味が2004年前後に根本的に変わってしまったからです。2003年にイラク戦争が起こると、小泉内閣がイラク復興特措法を成立させ、同年末に自衛隊をイラクに派遣します。これに対して違憲訴訟を真っ先に提起したのが、元自民党議員で防衛政務次官を務めたこともある箕輪登氏でした。そして2004年2月から各地で自衛隊イラク派兵違憲訴訟が提起されますが、そこでの主張は、専守防衛の自衛隊は合憲だが、海外派兵は違憲だという主張です。「9条の会」が結成されたのも同じ2004年の6月でしたから、そこでは自衛隊違憲論ではなく、海外で戦争する国づくりに反対するというのが一致点だったのです。つまり、自衛隊イラク派兵違憲訴訟と同じ立場なんです。

したがって、そのころから、自衛隊違憲論・廃止論は、護憲運動の表面からは消えてしまいます。ところが、一見、表面的には消えてしまったように見える自衛隊廃止論ですが、実は隠れキリシタンのように、その支持者は潜在的には根強く伏在しているというのが私の見立てです。

花岡さんの先日のメールでも、埼玉県会議員の▽▽氏と話し込んだ際、彼が花岡さんの自衛隊廃止論に賛同したとお書きになっておられました。私は▽▽氏という人を知りませんでしたが、今どき、自衛隊廃止を主張している政治家はほとんどいないでしょうし、おそらく彼も有権者に向かってそのような主張はしていないのではないかと想像します。しかし、堂々と自衛隊を廃止する人が現れれば同調する、という「隠れキリシタン」の、彼も一人だろうと思います。つまり、潜在的に隠れキリシタンは想像以上に多いことを示すひとつの実例ではないかと思いました。

つい先日、今井一氏だかが興味深いことを書いていました。討論型国民投票の実験を行った際、（母集団が何人だったかわからないのですが）討論前には自衛隊廃止論の支持者は2人だけだったのが、討論後には4人に倍増していたというのです。自衛隊を廃止しても日本の安全保障に危険がないどころか、むしろ安全性ははるかに高まることを、説得的に示さずすれば、賛同する人は実は非常に多いだろうと確信しています—引用終わり—

反戦平和音頭

花岡 蔚 作詞

- 1) 沖縄で 地上の戦い あったのは いつの事？
島は火の海 18万人 死んだ
日本（にっぽん）本土の 防波堤にされて
死んでいったの 何のため？
今 未だ 沖縄 基地の島
- 2) 東京に 焼夷爆弾 雨あられ いつの事？
街は廃虚に 10万人 死んだ
日本帝都の 不滅を信じて
死んでいったの 何のため？
今 又 日本（にっぽん） 軍国化
- 3) 広島と 長崎ビカドン 落ちたのは いつの事？
町は爛（ただ）れて 21万人 死んだ
日本降伏 とどめをさされて
死んでいったの 何のため？
今でも地球は 核の山
- 4) 戦争に 正義自衛の 大義など あるもんか
無念に散り果てた 310万 御霊（みたま）
報いる道は ただひとつあるだけ
平和な世界を 築くこと
すべての兵器を なくすこと

犠牲者数は平凡社の百科事典（沖縄については小学6年の検定済み教科書）からの引用。